

# まちおこしの起爆剤として 奮闘中

少子高齢化が進む中、地域のさまざまな課題に挑戦する若者がいる。それが彼ら地域おこし協力隊だ。今後の活動など抱負を聞いた。



心温まる映画で地域を明るくしたい



大山の美味しい野菜で町の魅力を伝えたい



果樹栽培の技術を未来に繋げたい



人と人のつながりが地域力 (居酒屋てまひま:長田)

## 本町に来た きっかけは

【藪田】鳥取県に転勤になり、大山が好きになり移住を決意しました。

【青木】中山出身で、15年ほど東京にいましたが、事業を知り帰郷しました。

【國吉】水と農地の良さに魅せられて就農移住したいと思いました。

【田中】鳥取市から大山の自然が好きになり、梨農家をめざすことにしました。

## 取り組みと 今後の抱負は

【藪田】門前の田舎暮らし体験住宅「のまど間」の開設運営を通じて、移住対策を行なっています。

また大山アニメーションプロジェクト・大山踊る「ワ」プロジェクトなどで、文化振興をしました。

これらの活動を通じてできた人脈で、空家対策も含めた移住定住問題に取り組んでいます。

【青木】協力隊時代から継続して、中山温泉で映画の上映を月1回やっています。それと下中山地区の集落支援員やコミュニティ食堂tanocoyの店長もしています。

また、ガラスFMで毎週水曜に、番組を持っています。その中で大山町の情報をどんどん町外に発信しています。

【國吉】就農してから半年が過ぎました。ブロッコ



藪田佳奈さん



國吉美貴さん

リーやネギを中心に野菜を多品種栽培しています。農協だけでなく、友達と通信販売も行っています。

大山の野菜を通じて、町のPRに繋がっていきたくです。

【田中】名和地区の梨農家で研修中で、この春就農する予定です。独立後の畑として一反ばかり借りていますが、足りないのが新規の畑を借りる予定です。

成木になるまで時間がかかるので、当面は近くの農家の手伝いをしながら

ら、地域の担い手として頑張りたいと思います。

【藪田】移住定住対策はいろいろなハードルがあります。

情報発信や支援は必要ですが、本人の住みたいという気持ちがあれば十分だと思いません。それと受け入れ側の協力も大切ですね。

【青木】町の情報発信にインターネット環境のさらなる整備が必要です。

多様化する住民の要望にどこまで応えられるかが、暮らしやすく若者が地域に残る鍵になると思います。



青木郷香さん



田中未菜子さん

【國吉】大山町は食べ物が多い。地元の人も多い。地元の人も再確認してほしいな。

それと集落営農のことが、地域の会合でよく話し合われます。若手の農家が減る中、私もできるだけ協力したいが大変です。今後の課題です。

【田中】果樹農家として一人前になるには、まだまだ時間がかかります。梨園が廃業して数が減らないよう、畑の効果的な移譲情報も欲しいです。

## 取材を終えて

移住してからのいろいろな苦労はあったと思いますが、地域に溶け込む意欲は大いに感じました。彼らが今後も地域で活動できるよう、私たちも連携協力していきたいと

思います。また皆様からは、防災無線やインターネットなどの情報伝達環境のさらなる整備が必要との声がありました。今後も活躍を期待しています。

地域おこし協力隊とは



### ○制度概要

大都市圏から過疎地域に生活拠点を移しながら、地域おこし活動をしながら、定住をはかる取り組み。

### ○活動期間

概ね1年以上3年以下

### ○その他

平成27年度で、全国

673自治体で2625人の隊員が活動しています。隊員の約8割が20歳代と30歳代となり、任期終了後、約6割が同じ地域に定住しています。本町では、これまで11人を受け入れ、現在9人が町内で活動しています。(うち2人は、地域おこし協力隊任期中)